

平成17年3月25日発行

発行：学校法人皇學館
編集：法人本部総務課

TEL0596・22・6308

E-mail : soumu@kogakkan-u.ac.jp

皇學館学園報

第3号

■伊勢学舎

【法人本部・大学院・専攻科・文学部】
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL0596・22・0201(代) FAX0596・27・1704

■名張学舎

【大学院・社会福祉学部】
〒518-0498 三重県名張市春日丘7番町1番地
TEL0596・61・3351(代) FAX0596・61・3350

●インターネットホームページ

<http://www.kogakkan-u.ac.jp>



総合体育館の完成イメージ。メインアリーナ(右側)とサブアリーナ(左側)により構成される。



上/平成18年から祭室教室としての利用を予定している剣道場。
下/現在、祭室教室が行われている精華寮の神殿大広間。

皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念 総合体育館の地鎮祭を斎行

創立百三十周年・再興五十周年記念事業の柱の一つ、総合体育館の建設がいよいよ始まった。平成十八年三月の完成に向けて、三月九日、学内の建設予定地で地鎮祭が執り行われた。新総合体育館は、これまで以上にスポーツや健康作り、文化活動などに幅広く役立てられるだけに、関係者の期待も大きい。

清々しい祈りに満ちた式

うららかな春の陽さしの下、午前十一時より行われた地鎮祭には、本学関係者をはじめ学生代表、設計監修や施工を担う各社、来賓など四十名余りが参加した。

文学部神道学科の安江和宣教授が斎主を務め、同学科の四年生三人が祭員として奉仕。一同起立し、低頭する中で「降神」の音が響き渡ると、より厳かな雰囲気包まれた。

新しい施設が多彩に

昭和四十一年に建てられた旧体育館と比べ、新しい総合体育館はさまざまな面で充実している。総合体育館建設委員の文学部・河野訓助教授は二階建てで、メインアリーナとサブアリーナがあり、床面積は約五千平方メートルと大々的になり、バスケットコートが同時に三面取れるほか、柔道場が二面、剣道・雑刀道場も一面あり、従来の球技系クラブに加え弓道部以外の

武道系クラブも活動できるようなになる。メインアリーナは吹き抜けで、バレーボールの

祭式教室の移転案 剣道場を大改修して充実

これまで祭式教室として利用してきた皇學館大学記念館は、耐震診断の結果、倒壊の可能性の高い建物であることが判明した。本学では、学生の安全を第一と考え、直ちに使用を中止し、当面の



地鎮の儀に先だってお祝いを受ける関係者。

公式試合ができる高さになる。また二階には一周約二百メートルのランニングコースが作られ、雨天でも走ることができる。

目新しい施設もある。トレーニングルームにはフィットネス器具が置かれ、一般の学生や教職員も健康作りに利用できる。また、体育館には珍しく、授業ができるセミ室も誕生する。運動生理学的な実験を授業で行えるほか、クラブのミーティングなどにも利用が可能だ。

「学生と教職員がスポーツや健康作りに親しむことができ、より良い環境になります。学生たちに大いに活用していただきたいし、各部の活躍もこれまで以上に期待しています」と河野助教授は語る。

代替措置として、新たに竣工した精華寮の神殿大広間を利用している。創立百三十周年・再興五十周年記念事業として、総合体育館がいよいよ着工の運びとなり、これが完成すれば、総合体育館内に剣道場も新設されるため、本学では、記念事業建設委員会において、現剣道場を祭式教室として大幅に改修することで検討を進めている。

現剣道場は、元の神宮歴史絵画館を神宮のご厚意により譲り受けた総柵造りの由緒ある建造物であり、祭式教室とするにふさわしいものである。総合体育館竣工の平成十八年四月から着工し、同年九月までに完工する

予定である。神職課程の学生諸君には、現在の状況は移動に時間がかかるなど大変迷惑をかけているが、今しばらくお待ち願いたい。



皇學館大学学生協議会。神道に関係がありますので、皇學館が最適だと思いました。アンナ 私はロシア人ですが、今はケンブリッジ大学博士課程の三年生です。研究テーマは、中世の神道史を探索する上で重要な三輪流神

今はまだ普通の授業が中心ですが、皇學館に在学中にアイヌについて勉強させたいと思っています。日本への留学を希望した際、私の学部の

アンナ 海外の研究者から見ると、中世神道説や神道史などをシリアスに勉強するには、皇學館がいいです。

アンナ 海外の研究者から見ると、中世神道説や神道史などをシリアスに勉強するには、皇學館がいいです。

アンナ 海外の研究者から見ると、中世神道説や神道史などをシリアスに勉強するには、皇學館がいいです。

(2面に続く)

日本文化の源流を求めて

留学生座談会「皇學館で学んだこと」

異文化間の交流を育む上で問われるのが、日本人として自国の文化を正しく理解した上でのアイデンティティ。本学では、多様な異文化を学び、正しい取捨選択のもとに受容をはかる他者と共生できる人材の育成を目指している。また、日本文化の研究を志す留学生もこれまで受け入れてきている。今年度、本学で学んだグエンドリーネ・ファンデルフォールストさん(ベルギー)、アンドリーヴァ・アンナ・ウィクトロフナさん(ロシア)、サミュエル・アナスレーさん(イギリス)が集まっていただき、皇學館での留学生生活や将来の夢などをうかがった。聞き手は豊住誠・文学部コミュニケーション学科助教授。伊藤雅紀・文学部神道学科助手が同席。座談会は日本語で行われた。

神道をシリアスに勉強するには、 皇學館がいいと思いました。

アンナ

先生が選んだのが皇學館大学でした。

豊住 サミュエル君は他の二人とは違ってまた学部生で、皇學館大学の特色ある授業を受けながらこれからの研究テーマを決めていくという立場ですね。他の二人は、皇學館大学を自分で選ばれたのですか。

グエンドリーネ 日本には神道を学べる大学が二つあり、こちらを選びました。

アンナ 海外の研究者から見ると、中世神道説や神道史などをシリアスに勉強するには、皇學館がいいです。

自然の美しさと 伝統に感動

豊住 みなさん、日本は初めてではなくて何回か来られていますね。初めて日本に来たときの印象はいかがでしたか。

グエンドリーネ 初めて来たときは旅行で、奈良に行きました。ベルギーにいたときは、日本は経済的な力を持っている国という印象でしたが、日

学園ニュース

生涯学習の一環として、一般市民を対象に開かれている皇學館大学文学部の月例文化講座が、昨年十二月で三百回を数えた。地域とともに進む学校として積極的に市民との交流を深めてきた本学では、開かれた知の拠点としてより一層の発展をめざす。

市民対象の
無料公開講座

文学部月例文化講座

通算300回達成



記念すべき300回目の月例文化講座は、200名を収容する教室で開かれた。

皇學館大学で定期的に行われている文学部月例文化講座が、昨年十二月十一日に開催された野村茂夫教授による「ことば

と漢字」の講座をもって、通算三百回を迎えた。一般市民を対象にしたこの公開講座は、本学の生涯学習の一環として昭和三十七年の再興と同時に始まったもの。各学科が持ち回りで一年ごとにテーマを定め、文学や歴史、神道、教育、コミュニケーションなど幅広い分野にわたって講座を開いてきた。毎回、伊勢市民を中心に学習意欲あふれる熱心な聴講生が集っている。

受講者の声

- 受講されたきっかけは何ですか。
●当時(昭和六十年)「式年遷宮」に興味をもっており、ちょうど皇學館大学でこのテーマについて開講していたので、それ以来受講している。
(伊勢市在住 男性)
- 元々歴史が好きで回覧板を見て以来、欠かさず受講している。
(明和町在住 女性)
- 退職してから勉強したい気持ち強く、市民対象の公開講座には積極的に参加している。
(松阪市在住 男性)
- 勉強することが好きで、大学で行っている他の講座も聴講している。
(伊勢市在住 男性)
- 記念品が贈られた。
十六年度の聴講生は計五九五名。皆出席者は二十五名。七十歳以上の方々の熱心な聴講も目立ち、本学の「生涯学習の場」として「開かれた大学」としての役割が、より深く地域社会に定着しつつあるといえよう。
なお、十七年度は国史学科が担当する。
- これまでの講座について何が一番印象に残っていますか。
●平成十三年度に行われた教育学科の「新世紀の教育を考える」は、全体的に非常に楽しかった。
(伊勢市在住 女性)
- 平成十年と十五年に行われた「神道のはなし」が、非常に興味深かったこと。
(伊勢市在住 男性)
- 十六年度の国文学科の「ことばの世界は、わかりやすい上に聴きやすい講座だった。
(御園村在住 女性)
- 講座に対して何か要望はありますか。
●資料の文字を大きくし

月例文化講座のあゆみ

- 第1～6回(昭和37～41年度) フリーテーマ
- 第7～11回(昭和41年度) 伝統と革新
- 第12～16回(昭和41～42年度) 伊勢と文学
- 第17～20回(昭和43年度) 人間と教養
- 第21～25回(昭和43～44年度) 神道と現代
- 第26～32回(昭和45年度) 明治維新を導いた人々
- 第33～39回(昭和45～46年度) 古典の鑑賞
- 第40～47回(昭和46～47年度) 現代の教養
- 第48～58回(昭和47～48年度) 伊勢の神宮
- 第59～69回(昭和49年度) フリーテーマ
- 第70～77回(昭和50～51年度) これからの教育
- 第78～87回(昭和51～52年度) 続これからの教育
- 第88～96回(昭和53年度) 伊勢市の歴史
- 第97～105回(昭和54年度) 伊勢と文学
- 第106～134回(昭和55～57年度) フリーテーマ
- 第135～142回(昭和58年度) 人と作品
- 第143～150回(昭和59年度) 伊勢国の歴史
- 第151～157回(昭和60年度) 神宮の式年遷宮
- 第158～165回(昭和61年度) 家庭と教育
- 第166～173回(昭和62年度) 現代の教養
- 第174～181回(昭和63年度) 和歌の世界
- 第182～189回(平成元年度) 神道の世界
- 第190～197回(平成2年度) 即位礼と大嘗祭の歴史
- 第198～205回(平成3年度) 現代の教育を考える
- 第206～213回(平成4年度) 生涯学習のすすめ
- 第214～221回(平成5年度) 神宮の歴史とまつり
- 第222～229回(平成6年度) 物語の世界
- 第230～236回(平成7年度) 歴史と人物一人とその時代—
- 第237～243回(平成8年度) 生活と文化
- 第244～251回(平成9年度) 教養にあそぶ
- 第252～258回(平成10年度) 神社のはなし
- 第259～266回(平成11年度) 詩歌の世界
- 第267～273回(平成12年度) 日本歴史とその画期
- 第274～280回(平成13年度) 新世紀の教育を考える
- 第281～287回(平成14年度) コミュニケーションへの招待
- 第288～294回(平成15年度) 続・神社のはなし
- 第295～301回(平成16年度) ことばの世界

※紙面の都合で各年度のテーマのみ記載。300回の演題名一覧が必要な場合は、文学部管理課までお申し出下さい。

ガンバレ! 高校生アスリート

全国大会への抱負を語る



上杉理事長(左)の励ましの言葉に耳を傾ける部員たち。

「第三十六回全国高等学校バレーボール選抜優勝大会」(第十三回全国高等学校剣道選抜大会)「第二十一回全国高等学校体操競技選抜大会(女子個人)」に出場する皇學館高等学校の部員らが、二月二十二日に大学を訪れ、上杉理事長に県予選の結果と全国大会への抱負を報告した。訪れたのは、中



バレーボール大会は、3月20日から東京の国立代々木第一体育館にて開かれる。

就職活動がいよいよ本番

夢の実現へ「キックオフ」!

社会福祉学部就職課では、いよいよ本格化する三年生の就職活動を前に、学生支援プログラム「キックオフ事業」に取り組んでいる。二月九日・十日に開かれた模擬面接会では、八十名の学生が、眼力を備えた学内・外の面接官

さらに、二月十四日から四日間には、開催された「一般常識」の見極めるのに役立つと好評であった。

上/真剣な眼差しで採用担当者の説明を聞く学生たち。(JOBフェア)



下/「私のしごと館」見学を終えての記念撮影。(運営:独立行政法人 雇用・能力開発機構)